

学園だより



2017年
3月号

March

Vol.189

contents

I	巻頭言：弘前大学長 佐藤 敬	2
II	特集 卒業・修了・退職にあたって	4
	卒業生・修了生 教職員	
III	新任教員紹介	13
IV	研究室紹介	14
V	けいじばんコーナー	17
VI	編集後記	20



作品：鳳
制作：教育学研究科教科教育専攻美術教育2年 工藤友哉

弘前大学を卒業、退職される皆さんへ 弘大応援団となつていただくことを願つて



弘前大学長
佐藤 敬

新 年を迎えるまでは比較的穏やかな天候が続いていましたが、結局はこの冬も厳しく長く感じられるものになりました。そんな津軽の地にも待望の春が訪れ、同時に多くの皆さんとお別れの季節を迎えることになります。この春をもって卒業される学生の皆さんと、退職または転任（同じですが）される職員の皆さんに、感謝を込めて、以下に送別の言葉を述べさせていただきます。

平成28年度末をもって卒業される皆さんには、まずもって心からお祝いを申し上げます。ご卒業、誠におめでとうございませう。皆さんが弘前大学の学生として過ごした期間は、可能性としては、他大学から修士課程あるいは博士前期課程に入学していただいた人の2年が最短で、長い人では10年以上になるかと推測します。その長短にかかわらず、この弘前の地で、そして弘前大学で過ごした日々を今後とも大切に思っただけの事を願っています。

最早、我が国の大学進学率は50%を超え、短大や専門学校進学を含めると約80%になりました。高等学校卒業後も勉学を継続することが特別でなくなったのは事実でしょうが、それでも、大学生活を送ることができたのは、皆さんにとって大いに幸いなことであるのは間違いありません。皆さんは、さまざまな経験から、同じ思いを抱いてくださるものと信じており、そして大学に進学できたことへの感謝を忘れないでいただきたいと思ひます。個々の皆さんが大学での勉学にどれほどの充実感を持っているかは分かりませんが、大学での授業はもちろん、学友や職員との交流、課外活動やアルバイト、旅行の経験など、学生生活全般を通して学んだことはきわめて大きなものであったと確信しています。しかしながら、間違いなく皆さんの学びはまだまだ続きます。そのことをしっかりと意識して、これからも学び続ける決意をこの機会に新たにして下さい。

国を確実に支えるのは、結局は人材であり、資源に富んだ国であろうと

なかろうと、人材育成は最も重要な国の事業です。皆さんの将来がいかなるものであったとしても、社会に貢献する意識を強く持っていたかなければならず、その事が個人の幸福にもつながるものと思います。弘前大学は“主として地域の活性化に貢献する”大学であることを旨としていますが、その中で学んだことは、将来皆さんが何処で如何なる役割を果たすにしても、必ず役に立つものと信じています。皆さんが社会のリーダーとして存分に活躍して下さることを強く願っています。

また、今年度末を持って本学を退職される職員の皆さんには、弘前大学の教育研究に多大なる貢献をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。皆さんの本学における勤務期間もさまざまかと推察しますが、やはり、その長短にかかわらず、皆さんが残された足跡は本学にとって欠くべからざるものであり、大きなものでした。本当にありがとうございました。

国立大学においては、財政状況が次第にひっ迫し、どの大学においても大きな危機感を持って運営が行われていると聞いています。弘前大学も例外ではなく、中期的な視点で大学運営の、特に財務面での基本方針を考えていかなければならない状況にあります。皆さんのご尽力のお蔭をもちまして、これまでは、なんとかやり繰りをできてきたことは幸いでした。そう遠くない将来に破たんする国立大学も現れるのではというような論調も一部で聞かれますが、弘前大学にそのようなことが決してあってはなりません。その意味で、皆さんのお仕事をしっかりと受け継ぎ、確固たる基盤を創ることが私たちの当面の重要課題であると認識しています。

現在は地方創生における大学の役割に注目が集まっています。私たちは以前からそのような大学を目指してきたと思いますが、例えば、COCのような取組を通して、地域人材の確保において明確な数値目標の達成に向けて努力する体制が整ったことは大きな進展でした。しかしながら、卒業生の地域定着を促進するという

単なる出口論だけではなく、地域人財の育成に向けた地域との連携が、教育研究のすべての面で包括的に進んだことは重要だと思います。皆さんお一人おひとりが何らかの形でそのことにかかわっていただいたことは間違いありませんが、地域人材の育成は弘前大学の根幹にかかわることであり、国によるCOC事業が終了した後も、着実に継続実施していくことが必要です。これに限らず、さまざまな面で、皆さんの経験に基づいたご指導、ご鞭撻を引き続き宜しくお願いしたいと思います。

毎年この時期、「学園だより」にこのような文章を載せていただいておりますが、これを書くことで、私自身もいろいろなことを振り返るのに良い機会であると思っています。弘前大学を去られる学生、職員の皆さんお一人おひとりには、もっと大きな感慨があるものと推察します。そんな中であって、今後も、皆さんが弘前大学で過ごした日々を良い思い出として、懐かしく振り返っていただけるよう願って止みません。そして今後の弘前大学を暖かく見守り応援していただければ幸いです。私たちも弘前大学の健全な運営に力を尽くしていく所存です。また、平成31年には、弘前大学は昭和24（1949）年の創立から70周年を迎えることになっており、現在、記念事業等の計画策定をスタートしています。大まかな方針としては、主として、創立80周年までの10年間の教育研究に資する記念事業等を立ち上げたいと考えています。皆さんのご協力もいただいて、そして皆さんと共に、創立70周年を盛大に祝うことができればと願っています。

最後になりますが、なにより、皆さんの今後のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げ、皆さんをお送りする言葉に代えさせていただきます。そして、繰り返し感謝を申し上げます。大変ありがとうございました。

卒業・修了・退職にあたって

卒業生・修了生

人文学部



人間文化課程
高橋穂菜美

大学生活を振り返って

弘前大学に入学して早4年が経とうとしています。これから始まる大学での新しい生活に、期待で胸を躍らせたことを懐かしく思います。入学当初は、新しい環境や初めての一人暮らしに戸惑いの連続でしたが、友人にも恵まれ充実した日々を送ることができたと思います。私は決して優秀な学生とは言えませんでした。目標を持って自分なりに一生懸命取り組みました。また私は競技ダンス部に所属していました。部活では運営や大会など大変なことも数多くありました。しかしそれ以上に、この部活で過ごした日々は私の中でとても大事な思い出です。4年間の部活動を通して、素晴らしい同期や先輩、後輩と出会うことができました。卒業後多くの人たちと離れるのは寂しいですが、ともに過ごせたことを心から嬉しく思います。

大学生活は本当にあっという間でした。しかし思い出も多く詰まったかけがえのない時間です。後輩の皆さんは、これからの大学生活をいっぱい楽しんで多くの思い出を作ってください。この4年間、ご指導くださった先生方、先輩方、友人や後輩、家族など多くの人に支えていただきました。本当にありがとうございました。



現代社会課程
小山内 咲

卒業にあたって

入学から4年が経ち、ついに卒業となりました。あっという間の4年間でしたが、振り返ってみるととても充実していたと思います。

所属していた社会行動コースでは、フィールドワークや調査結果の発表などを仲間とともに協力して行っていました。コースの先輩方から調査の仕方やレジュメの作り方を教えていただいたり、アドバイスを貰ったりしながら「先輩たちはすごいな」と思っていたのを覚えています。

いざ自分がその立場になると、どうやって後輩にアドバイスをしたらいいのかわからず、困ることもありました。それでも、仲間と協力して何とか乗り越えることが出来ました。

ゼミナールでは3年生とともに議論を交わし、3年生の発言から自分では気が付かなかったことに気づかされることも多々ありました。人の意見からインスピレーションを得て、新たな考えを出すきっかけになりました。

そんな日々もうすぐ終わり、これからは一社会人として新たなスタートに立ちます。大学生活への心残りや新生活に対する不安もありますが、大学時代に学んだことを生かしていけるよう頑張りたいと思います。4年間、本当にありがとうございました。



経済経営課程
中川 慧美

充実した大学生活

不安と緊張の中でスタートした大学生活も、まさに光陰矢の如し。

遡ると4年間の思い出は限りませんが、私の大学生活に最も彩りを加えたのは官民協働留学支援制度を利用して中国留学できたことです。地域の課題に対して企画提案を考える課題解決型の授業や海外での実地調査など、それまで本学で学んだことを活かし、今度は自分の力を試してみようと思ったの挑戦でした。留学の計画は全て自分で立てなければならず大変でしたが、大学や企業のサポートをいただきながら学べたことは、何ものにも代え難い価値ある時間であり、課題を見つけ解決に向けて主体的に取り組むことの重要性を再認識しました。現地での語学研修やインターンシップを通じて視野が広がり、国境を越えた人々との出会いや交流も財産の一つとなっています。また、ゼミ仲間とともに初めて挑んだハーフマラソンをノンストップで完走できたことも、「何事もやればできる」という自信と達成感に繋がりました。思い起こせばいつも教職員の皆様や仲間を支えられ、励まされてきたように思い、感謝の気持ちでいっぱいです。誠に有難うございました。

本学での多様な経験を糧に、今後社会に出る中で試練や困難に遭遇して、乗り越えてパワーアップできるよう、邁進して参りたいと思います。

教育学部



学校教育教員養成課程

小山内帆乃加

大学生活を振り返って

4年間の大学生活を終え卒業を目の前にし、大学生活で得られたものについて考えています。わたしが専門学校ではなく4年大学に行きたいと思ったのは、社会に出る前にやりたいこと、知りたいことがたくさんあったからです。中でも一番やりたかったのは、音楽です。高校では軽音部がなかったので、自分で仲間を探し、歌える場所を探してバンド活動をしていました。大学でサークルに入ってから、たくさんの刺激を受け、思う存分音楽と向き合うことができました。また、勉強面では、計画的に課題を進めるということができず、締め切り前や試験前はいつも寝不足でした。公務員試験を受けようと決めたのも遅く、一か月しか勉強する時間がありませんでした。追い込まれることには慣れていたので、驚きの集中力と持ち前の運で乗り切ることができました。

多くの試練に会いましたが、その度に悩み葛藤しながらも、ここまで進んでこられたという事実は、これから社会に出ていく中で、自信となり勇気となりわたしを支えてくれると思います。大学生活は本当に短く、濃いものでした。わたしを育ててくれたすべての人に感謝しています。ありがとうございました。



学校教育教員養成課程

小山内裕二郎

疑問に思うこと

なぜ、と疑問に思うことが物事において重要な意味を持つと私は思います。私がそのように思う理由は、尊敬する人物であるお笑い芸人の厚切りジェイソンさんにあります。彼のネタは、彼が日本語を学ぶ過程で疑問に思ったことをベースに作られています。例えば、漢数字に関してです。一、二、三ここまでくれば棒が一本ずつ増えてきている法則性があるように見えます。しかし、次の漢字は棒が四本ではなく、四という漢字です。そこで、彼はこう言うわけです、「WHY JAPANESE PEOPLE!」と。我々日本人からしたら、幼い頃からわかっているものなので、そこまで疑問に思ったことはないのではないのでしょうか。私がここで言いたいことはこの「WHY」という視点です。

例えば、ある問題が解けなかったとします。そこで、なぜこの問題が解けなかったのかを考えます。すると、いろいろな要因が考えられます。そして、その要因を一つずつ潰すことでその問題を解けるようになると思います。聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥とも言うように、疑問に思ったことを探求することが自己を成長させる機会であるように思います。様々なことに疑問をもってみなさんの大学生活が実りあるものになることを祈っています。



学校教育教員養成課程

石田 友莉

大学4年間を振り返って

育った土地を離れ弘前で生活し始めて4年の月日が経ちました。1年目は大学生活に慣れることで精一杯でした。特に津軽特有のなまりを解釈することは本当に大変でした。今では津軽弁をマスターし、使えるようにまでなりました！校舎からはきれいな岩木山が見え、辛いときや悲しいとき、いつも励ましてくれるかのように見守ってくれていました。

そんな弘前とお別れすることはとても寂しく思います。大学4年間を振り返ってみると、勉強、部活、サークル、ボランティア活動など、たくさんのことに取り組み様々なことを学ぶことができた4年間だったと思います。時には辛く苦しい日々から逃げ出したくなることもありましたが、先生方や仲間に支えられ乗り越えることができました。自分の意見にしっかりと耳を傾け、適切な指導をして下さった先生方、いつも味方でいてくれた両親、そして弘前大学に来たからこそ出会えた仲間、心から感謝しています。

春からは弘前を離れますが、出会えた仲間との絆を大切に、いつも感謝の気持ちを忘れず、日々精進していきたいと思っています。後輩の皆さんも自分らしく充実した大学生活を過ごしてください。

卒業・修了・退職にあたって

卒業生・修了生

医学部医学科



医学科

村上 圭秀

恩 師

弘前大学を去るにあたり、特にお世話になった2人の先生を紹介します。1人目は医学研究科脳血管病態学講座の今泉忠淳教授です。今泉教授とは1年生の基礎ゼミを担当して頂いたときからの付き合いです。2年生の夏休みと春休み、合わせて3か月ほど研究を指導して頂きました。高学年になっても教授室には頻繁に足を運び、世間話から研究に至るまで多くのことを教えて頂きました。2人目は医学研究科病理生命科学講座の鬼島宏教授です。4年生の研究室研修から6年生のクリニカルクラークシップに至るまで、約2年半にわたり研究のご指導を受けました。鬼島教授には、多忙な講義・実習の中でも研究に没頭する環境を整えて頂き、さらに、得られた成果をギリシャの学会で発表する機会まで頂きました。

良き恩師に恵まれたおかげで、充実した6年間を過ごすことができました。いつか恩返しができるよう、今後も精進して参ります。



医学科

吉川 未雪

弘前大学を卒業するにあたって

弘前大学に入学してから、もう6年が経とうとしています。6年前、東日本大震災直後の不安な気持ちを抱えたまま新しい生活がスタートしたのが昨日のことに思い出されます。

部活にバイトに没頭していた1年生。専門科目が始まり、四苦八苦しながら勉強していた2年生。専門科目にも少し慣れ、新しい部活に入り、先輩後輩が増えた3年生。研究室研修にCBTと大忙しの中、友人の卒業を見送った4年生。実習が始まり、白衣を着て患者さんと接することになった5年生。外部の病院での実習と並行して、本格的に国家試験に向けて勉強を始めた6年生。友達と支え合いながらここまで歩いてきました。

思い返すと本当にあっという間の6年間でした。辛いことも大変なこともたくさんありましたが、たくさんの方々に支えられてここまでくることができたと実感しています。今までお世話になった先生方や先輩方、友達、そして両親には感謝の気持ちでいっぱいです。いままで本当にありがとうございました。

医学研究科



医科学専攻

神庭 文

弘前大学で過ごした9年間

弘前大学医学部医学科に6年間、その後県内の医療機関で初期臨床研修を2年間行った後、大学院医学研究科に3年間在籍させていただきました。故郷の鳥取を離れ、早くも青森で12回目の春を迎えようとしています。初めて弘前に来た時のことを思い返してみると、入試に向かう中、雪道を何度も転び、何て縁起が悪いのだろうと泣きそうになったのを思い出します。

医学部では、勉学や部活に充実した日々を過ごしました。大学院では、附属病院や市中病院に勤務して臨床に携わりながら、「岩木健康増進プロジェクト」のデータを用いて疫学研究を行いました。研究は、診療に支障がないように夜間に行いましたが、夜間の呼び出しや当直にかまけておろそかになってしまうことも多々ありました。そんな中、何とか診療と研究を両立できたのは、医局の先生方を始め、周りの方々に囲まれていたためと強く感じています。

大学院医学研究科は本来4年制ですが、多くの先生方やスタッフにお力添えいただいたおかげで3年で卒業予定となりました。この場をお借りしてお世話になった先生方に深く感謝申し上げます。今後は大学院で学んだことを生かしながら、更に診療に力を注いでいきたいと思います。

医学部保健学科



放射線技術科学専攻

多和田侑介

北へ

私は沖縄出身です。前期試験で失敗し少しやけになっていたというのがありますが、せっかくの大学4年間今まで経験してこなかったことに挑戦しようと思い、雪に埋もれてみることにしました。そうしたら本当に埋もれるほどに雪が降り、真冬日などという沖縄との気温差約30度という馬鹿げた気候で、私は1年生の冬家から出られませんでした。そのため何個か単位を落としましたが、絶対卒業して沖縄に帰ってやるという気持ちと、専攻やサークルの友人の支えのおかげで何とか卒業まで漕ぎつけることができました。

大嫌いな雪ですが感謝している部分も少しあります。それはスキーができるということです。上手く滑ることはできませんでしたが、友人と雪まみれになって笑いあったことは一生の思い出です。また、鍋をつつきながら仲間と飲み語り合う時間も雪国の良さなのだと実感しました。

私は就職で沖縄に戻りますが、弘前大学にいた4年間は楽しいことも苦しいことも全て沖縄にいたままでは経験できないものばかりでした。後輩の皆さんも今からでも遅くないので留学したり旅行でもいいので、自分が行ったことのない場所でたくさんのことにチャレンジしてほしいです。その経験は今後の人生で絶対に活かされるし、一生の思い出になると思います。



検査技術科学専攻

山田 直

4年間の大学生活を振り返って

私が弘前大学へ入学して4年が経とうとしています。学生生活はあっという間に過ぎた印象です。入学前は大学生活に馴染めるか不安の感情が大きかったですが、クラスメイトやサークル仲間にも恵まれて大変有意義な大学生活を送れたと思います。

私が所属する検査技術科学専攻では臨床検査技師の国家資格の取得を目標としており、非常に過密な授業・実習スケジュールでしたが、大切な仲間からの支えもあり無事に卒業することができました。特に印象的だったのが3年次の臨地実習で、教科書とは異なる実際の医療現場を体験できたことは貴重な機会となりました。また4年次の卒業研究では論理的な考え方や問題点の解決方法など学ぶことができました。研究成果を学会で発表する機会もあり、他人へわかりやすく自分の考えを伝えることの難しさをあらためて体験しました。

この4年間の有意義な学生生活を送れたのはご指導くださった先生方、クラスメイト、サークル仲間、そして家族のおかげであり心から感謝いたします。4月からは社会人となりますが、これからも出会った様々な人とのつながりを大切に、お世話になった方々へ感謝しつつ、日々努力していきたいと思っています。

保健学研究科



保健学専攻

有馬 弘晃

大学院進学で得たこと

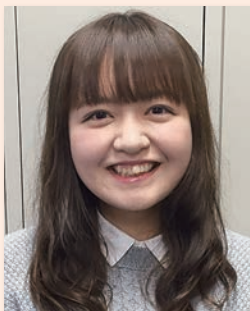
私は弘前大学を卒業すると同時に臨床検査技師免許を取得し、大学院へ進学しました。大学院では、学部卒業研究で扱った寄生虫の研究を継続しながら、検査技師のアルバイトをして生活していました。臨床の現場では大学の実習や講義では得られない様々なことを学ぶことができ、日々成長できたと感じています。またそこで感じたことを実習のTAに入ることで学部生にだけでも伝えられたことはよかったと思っています。研究においては、様々な学会発表を経験させていただき、先生方に大変感謝しています。保健学研究科では、それぞれの専門授業だけでなくチーム医療に関して学び協議する場もあります。アルバイトをさせていただいたおかげで「他職種との連携」の重要性を実際に感じることができ、また、理想と現実の間にまだ壁があることも感じました。

私自身は、大学院の授業で国際保健について考える機会があり、進学前よりも海外の医療問題に関心を持つようになりました。進みたい道を見つける機会が得られたという点で、大学院に進学してよかったと確信しています。大学院は専門性を高めると同時に、一度広い視野で自分の人生を見つめる良い機会ともなります。是非、進路の一つとして考えてみてはいかがでしょうか。

卒業・修了・退職にあたって

卒業生・修了生

理工学部



電子情報工学科

柴田 夏生

学生生活の思い出

弘前大学に入学してから早4年、とうとう卒業を迎えることとなりました。入学当初は一人暮らしや日々の講義など、初めてのことで不安に思っていたことを懐かしく感じます。この4年間は非常に充実し、たくさんの思い出を作ることができました。

その中でも印象深い思い出はサークル活動です。サークル紹介で初めて三味線の生演奏を聴き、先輩方の演奏姿に憧れて津軽三味線サークルに入部しました。初めは楽器の持ち方すらもままありませんでしたが、先輩方から曲を教わり、人前で演奏できるようにとにかく練習しました。2年生になってからは、地域のイベントでの演奏や被災地でのボランティア演奏に参加したり、私の地元北海道では、能楽堂という普段はなかなか上がる機会のない場所でも演奏させていただいたりしました。各地での演奏会を通してたくさんの方々に出会い、貴重な経験を積むことができました。

4月からは新社会人としての生活が始まります。新たな環境での生活に不安なこともあります。が、大学生活で得た経験を活かし、日々努力していきたいと思います。

理工学研究科



理工学専攻

佐藤 湧斗

今しかできないこと

「今しかできないこと」をしよう。そう思って海外に一人で行く決意をしたのは大学2年生の時だった。日本人向けではなく、ヨーロッパを旅行する観光客向けの現地のツアーに参加した。世界中から参加者が集まるため、共通語は英語。その時から毎日英語に触れる生活を3、4か月続けたことで少し英語を聞き取れる自信はついたが、不安が多かった。一人で搭乗手続きができるのか、入国審査は通れるのか、英語で意思疎通できるのか。出国する前、泣きそうだったことを今でも懐かしく思う。結局、英語は早すぎて聞き取れなかったが、ツアーメンバーは優しく、主要な観光地も回ることができ、とてもいい経験になった。その経験があったからこそ、大学院生となり研究のため一人で約2週間スペインに滞在する機会を頂いた時にも、ぜひ行きたいと思った。不安もあったが、前にも一人で行けたという強い自信があった。この滞在は大学院生活の中でも特に思い出に残っている。

最後となるが、これまで様々な面で支えてくれた家族、ご指導いただいた先生方を含め、お世話になった多くの方に感謝したい。これから社会人となるが、「今しかできないこと」を見つけ果敢に挑戦していきたい。後輩の皆さんも、大学生のうちにしかできないことをとことんやって悔いなく卒業の日を迎えてほしい。

理工学専攻

田名部真梨子

大学院で学んだこと

大学入学時はこれほど長く弘前に居るとは思いもしませんでした。ついにこの春、6年間にわたる学生生活が終わりを迎えることになりました。振り返れば、とても充実した6年間だったと感じています。

大学院は学業と研究に勤しむ毎日でした。次々生まれてくる疑問や課題と向き合うなか、思うような結果が出ず足踏みをする状態の時もたくさんありました。そんな時、研究室配属当初に恩師である指導教員から言われた「考えるだけでなく行動しなさい。」という言葉の思い出し、迷っても少しずつでもとにかく前に進もうと行動を起こして取り組んできました。その結果、学会等には数回参加することができました。こうした経験から得た最大の財産は、何事もやってみようという習慣を身につけられたことです。行動しなければ分からないこともあります。ときに失敗や遠回りをしてしまっても、行動を積み重ねた結果が自分の糧になると実感しました。卒業後は社会人として、学生生活で学んだことを社会に還元できるよう頑張りたいと思います。最後に、学業からその他学校生活に至るまでご指導くださった先生方および職員の方々に深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

農学生命科学部



分子生命科学科

工藤 理帆

大学生活を振り返って

4年前、初めて弘前に来た時は大雪でとても寒い日でした。新たな生活がスタートする期待よりも、地元を離れる不安や寂しい気持ちが募るなか、入学式を迎えたことを思い出します。弘前は工藤姓が非常に多く入学後に祖父から私の曾祖父が弘前出身だったと聞かされ不思議な縁（えにし）を感じ感慨深いものがありました。今振り返ると友人と旅行した楽しい思い出やアルバイト、失敗続きの実験や就職活動といった苦しい思い出もありましたが、その一つ一つの経験が今の私に繋がっており、入学当初よりも一回り成長することができたと思います。入学前に抱いていた大学生のうちにやりたいことリストのすべてを実行できたわけではありません。ですが、卒業目前の今、充実していたと思える大学生活を過ごすことができたのは多くの方々の支えがあったからこそと思います。一緒に笑い合った仲間、ご指導くださった先生方、いつも支えてくれた家族、そして私のルーツであるこの弘前の地で学べたことに心より感謝いたします。お世話になった皆さま本当にありがとうございました。

農学生命科学研究科



農学生命科学専攻

岩田大次郎

卒業するにあたって

「我、鉄砲玉なり。前方へ射出するのみ」

教授から授かった言葉である。まずやってみなさい、行動してみればいいのだよ、という心が端的に表されていて私は好きである。それと同時に、私の大学生活に足りなかったものだとも思う。

大学院に進学してから考えるようになったのは、自分は何をしにここにきたのかということであった。これは自分にも後輩にもよく思うことであるが、何がしたいのかを明確に持っている人間はやはり面白い。そしてその何かに情熱を傾けている人間は総じてそのほかのことにも熱い気がする。

大学院2年の夏、私は魚釣りに出会い、それこそ情熱を傾けた。釣りとは非常に似ていると思う。こういった背景でなんの魚をどうやって釣りたいのか、その魚はどんな生態なのか、潮は？時期は？仕掛けは？創意工夫しあれこれ試して結果につなげる。実験でも同様に考えるようになった。実験対象と研究の背景は？どんな遺伝子？機能は？解析方法は？自ら考え行動してみよう。間違いがあれば、先輩や教授が道を示してくれるはずである。

自分が心を燃やせるならばなんでもいい。何かに熱中し行動する。それだけで大学生活は格段に楽しくなるはずである。そしてその後の人生をも豊かにしてくれるはずだと私は確信している。大学生活の最後の最後でそれに気づけたことを幸運に思い、大学生活を支えてくれた全ての人に感謝したい。

大学院修了にあたって



農学生命科学専攻

斎藤 優里

私は酪農学園大学で乳製品製造やそれに関わる研究をしていましたが、乳酸菌に関心を持つようになり、弘前大学大学院 食品安全研究室へ進学しました。

私の研究は、世界遺産である白神山地区から特色のある乳酸菌を分離し、その乳酸菌の利用により地域産業の活性化に役立てることを目的とするものです。何よりも第一の課題は、植物から発酵乳製品に利用できる乳酸菌を見つけることでした。体力には自信がありましたが、山歩きとなると別です。サンプリングは、白神自然観察園をはじめ青森県内多くの場所に足を運び、植物を採取してはどんなに遅くとも学校に持ち帰り作業をしました。今となれば、このサンプリングが自分にとって充実した楽しい時間でもありました。頑張った甲斐があり、植物からヨーグルト乳酸菌を発見し、その乳酸菌でヨーグルトを作ることができました。

弘前では、戸羽先生、殿内先生、名誉教授の原田先生、そして「白神きのこの会」をはじめ多くの方々と関わる事ができ、2年間とは思えないほどたくさんの思い出が出来ました。本当にありがとうございました。一生忘れられない第二の故郷であるようにも感じます。農学生命科学部で過ごした日々を誇りに思い、4月からは社会人として頑張っていこうと思っています。

最後に、弘前大学の今後益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

卒業・修了・退職にあたって

教職員

教育学部



教授

奥野 忠徳

世情

弘前に赴任して早や36年がたちます。大阪生まれ、大阪育ちなので、4月の雪には度肝を抜かれました。思い返してみると、今はかなり違う大学の風景が見えます。例えば、教授会ではたくさんの教員が煙草を吸っており、もちろん灰皿が置いてあり、私も吸っていましたが、煙草の煙で会議場の端のほうがぼんやりかすんでいました。授業では学生アンケートやシラバスなどもなく自由にのびのびと授業ができました。煙草に関しては、健康上これは絶対に現在のような禁煙が望ましいことは明かです。授業に関してはどうでしょうか？昔は教員は良かれ悪しかれそれぞれ自分の「授業観」を持っていたように思います。現在はそのようなことができない状況のように思われます。例えば、一つの問題について延々と学生と議論を戦わせるなどということはほぼ不可能です。しかし、大学というのはそもそもそのような場ではなかったのでしょうか？どの制度も一長一短があり一概には言えませんが、これは大学の根幹を成す問題なので、考えてみる価値はあると思います。

医学研究科



教授

中根 明夫

吾唯知足

All you need, you already have

1994年4月、弘前大学に赴任してきました。学生時代も含めて北海道大学に23年間在籍し、さらに同じ期間を弘前大学でお世話になりました。振り返るとあつという間の23年間で、過ぎた時間の速さに驚くばかりです。弘前に来た年は前年の稲作不良で主食の問題が騒がれ、翌年は年明け早々阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件と衝撃的ニュースが走ったことを、昨日のように思い出されます。

私自身を振り返れば、教職員の方々の助けを借りながら、さまざまな仕事を経験させていただきました。AO入試の導入、教養教育改革やPBL (problem-based learning) の導入、動物実験管理、出版業務、図書館管理、さらに本町キャンパスの緑化などなど、自分にとってすべてが血肉となり、一つひとつが楽しく貴重な経験でした。

以前私どもはデパートの一売り場を担当していれば良かったのですが、国立大学の法人化後は大いなる改革が求められ、現在はテナントとして個々の教員の存在意義が問われる時代です。大学に対してさまざまな要望があると思いますが、「知足」、つまり「足を知る」という精神で考えると弘前大学はとても良い大学だと思います。まずは「足を知る」。しかし、知足で終わらず、自ら前進する努力が必要かと思います。一人ひとりがそのような意識を持てば、自ずと大学が発展していくことでしょう。弘前大学に大いなる謝意を表するとともに、今後弘前大学がさらに繁栄することを楽しみにしています。



准教授

外崎 敬和

弘前大学を去るに当たって

私は弘前の街、弘前大学に育てて頂きました。1978年弘前を離れ、福島医大に籍を移して福島県民となりました。そしてオランダNijmegen (ナイメーヘン) 大学での1年4ヶ月を含め24年を福島ですごしました。2002年、期せずして弘前大学に異動となり、再び、弘前市民となって15年目となります。1982年からは解剖学教室に所属し、研究と教育に携わり今日に至りました。研究領域は神経内分泌学、肉眼解剖学、神経科学等の分野です。その中で主たるテーマは「視床下部一下垂体系のMSH分泌機構」を中心とした一連の研究です。教育は主に「人体解剖学」担当して35年となります。今、研究と教育をふりかえると、支えてくださった数多くの師、研究仲間の「おかげさま」でここまでやってこられたと「ありがとうございました」の気持ちで一杯です。ここに深く感謝を申し上げます。併せて、医学教育のために、死後、無条件無報酬の篤志でご献体なされ、物言わぬ師として学生の解剖学実習のお相手を頂いた白菊会成願会員の皆様、1200名余の故人に深甚の感謝の誠を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。



教授

早狩 誠

退任にあたって

昭和56年6月に弘前大学医学部に助手として採用されて以来約35年間弘前大学にお世話になりました。法医学講座、米国留学後の第二生化学講座、脳血管病態研究施設機能回復部門、そして薬剤学講座（薬剤部）に勤務させていただきました。最後の約10年間の薬剤部勤務は、あっという間の10年間だったとしみじみ感じております。

社会人の第一歩を青森県警察本部刑事部鑑識課犯罪化学研究室（現科学捜査研究所）で踏み出し、その後に法医学講座故村上利教授のお世話により弘前大学に勤めることになりました。法医学講座では司法解剖の補助を行い、約11年間で約450体以上の解剖に係って参りました。解剖台に横たわっているご遺体は、自らの意志に反して、または自らの意志で人生の幕を閉じた方々でした。そのような方々を目のあたりにし、人はこの世に生を受けてきた以上、自らの命を大切に、それぞれの目標に向かって生きる責任があるとつくづく感じた次第です。最後の職場では、まさに生きる責任を全うしようと努力をしている患者さんの手助けをする部署に勤務することとなり、法医学講座在職時代の思いが患者優先の業務を進める大きな支えになった次第です。

弘前大学には35年余にわたり大変お世話になりました。今後も弘前大学が益々発展しますことを祈念しております。

理工学研究科



教授

有賀 義明

光陰矢のごとし

2007年11月に本学に着任しました。その後、間もなく、2008年6月には岩手・宮城内陸地震、2011年3月には東北地方太平洋域地震が発生しました。3.11の時は学科長だったので翌日3.12に予定されていた後期日程入試の対応や学科の全学生の安否確認等で気を揉んだことを思い出します。

大学卒業後、約40年間、土木工学の分野で耐震工学、地震工学の研究開発に細く長く従事してきましたが、65才になり、なるほど“光陰矢の如し”と実感しています。地震災害では、地震の揺れ自体では人は亡くなりません。地震の揺れで構造物が壊され、壊された構造物が人の命を奪い人間社会の機能を停止させます。従って、地震防災を実現するためには、安全な構造物や施設の実現が必須の要件になります。少子高齢化の時代は、換言すれば、技術者の減少と老朽化構造物の急増の時代と言うことができると思います。こうした時代には、技術の継承不足や経験不足による、技術の退化や空洞化が大きな課題になると思います。大地震時に人や人間社会に危害を及ぼさない構造物や施設の実現は、世の中から技術者に付託されている重要な責務であり、そのためには、良質な技術力（技術力＝想像能力＋総合力＋志×熱意）が必要不可欠だと思います。志と熱意を持った、質の高い技術者の育成と輩出は、世の中から理工学部・理工学研究科に求められている必須の使命だと思いますので、理工学部・理工学研究科の今後の益々の充実と活躍を心より祈念しています。これまで、どうもありがとうございました。



教授

飯倉 善和

東日本大震災から学んだこと ―社会貢献とは―

東北で生まれ（山形）、育ち（仙台）、暮らし（仙台、盛岡、弘前）て来た人間にとって、6年前の東日本大震災は忘れがたい思い出です。研究（リモートセンシング）を活かして、震災前後の衛星画像（地球観測衛星「だいち」が撮影）を地図と重ね合わせたデータベースを公開しました。また、盛岡に自宅がありましたので、個人的に2回ほど「がれき処理のボランティア」に参加し、研究室の学生がボランティアに参加するお手伝いもしました。泊まりがけのボランティアで、多くの方との交流もあり、大学では得られない経験をしたようです。

このように何か役に立てることはないかと模索している中で見つけたのが、被災地応援ファンデーションです。インターネットを通して被災した企業の復興のための資金が集められていました（クラウドファンディング）。世の中では資本主義やグローバル化が格差を助長しているなど暗い話を聞きますが、一方でインターネット（＋情報技術）を通じた助け合いの仕組みもいろいろ考えられているようです。退職後は開発した衛星画像処理のプログラムをインターネット上で公開（オープンソース）するなど研究者としての社会貢献とともに、経済的な社会貢献（クラウドファンディングやブロックチェーンなど）にも目を向けていきたいと思っています。

卒業・修了・退職にあたって

教職員

理工学研究科



教授

伊藤 昭彦

大学生活での予期せぬ出来事

1999年4月、前任地の九州から、理工学部到新設された知能機械工学科システムに赴任して以来、教育は主に流体力学を、研究は固体や液体燃料の燃焼に携わってきました。その間の大学生活で、予期せぬ出来事を経験しました。

一つ目は、科学鑑定です。弘前の消費者金融「武富士」での放火殺人事件について燃焼学の立場から解説した記事が「東奥日報」に掲載されました。地方新聞での記事と高を括っていたのですが、時はすでにインターネットの時代でした。火災や放火に関わる民事、刑事事件の鑑定依頼が押し寄せてきました。民事はまだしも刑事事件は責任が重大です。大阪寝屋川放火事件、広島介護士放火殺人事件、大阪東住吉放火殺人事件などは、自供があった事案でしたが、自供の内容と放火の機序が科学的に符合しないことを明らかにし、いずれも無罪となりました。とりわけ、再審となった東住吉事件は、鑑定実験から10年の歳月を要しましたが、定年を前に一区切りがつきました。

二つ目は、本学の硬式テニス部の顧問になったことです。大学での顧問は予期せぬことでしたが、学生とのテニスは実に楽しいもので、今後もOB会には参加するつもりでいます。

昨今、大学の教育・研究はいろいろと制約が多くなりましたが、大学は自由な発想のもとで学問をする場です。これからもそのような環境が維持されることを願っています。



教授

小野 俊郎

13年間を振り返って

平成16年（2004年）4月に着任し、あっという間の13年間でした。これまで学科、学部や全学の大勢の皆様のご指導とご協力のおかげをもちまして無事に退職を迎えることができます。また、青森県をはじめとする自治体や企業の皆様にも多大なお手伝い頂きましたことを感謝申し上げます。

外からみる大学は変化がなく、青春を閉じ込めた良い意味で望郷を感じるころでした。中に入ると組織、制度が頻繁に、しかも、事前準備が短い中で変わることには驚きました。着任した年が法人化初年度であることの影響があるのかもしれません。早速2年目には新学科準備委員会委員を仰せつかり、学部再編の手伝いをさせていただきました。その後、いくつか改革、再編などの手伝いをさせていただきました。頭をもたげる企業スキルによる選択が、必ずしも皆様に満足のいく方向ではなかったこともあるだろうと感じております。回りの皆様のご親切のおかげにより、無事に過ごせたものと感謝しています。

時代は大きく変わります。社会の構造、国際的な位置取りと地域における役割。社会全体が暗中模索して、次代のシステムを考えようとしています。弘前大学がその先頭に立ち、ますます発展しますよう祈念いたします。

Ⅲ 新任教員紹介 あいさつ

新	任	
	教	員
	紹	介

天海 丈久

教育学部 准教授



平成28年（2016年）11月に着任しました天海丈久と申します。これまで約28年間、県立特別支援学校（知的障害、肢体不自由、病弱）及び県教育委員会に勤務してきました。現在、特別支援教育は、いくつもの新たな対応を求められているところで

すが、学校でいつの時代でも変わらないものは、子供理解と授業づくりの探求だと考えています。その方法を皆さんと一緒に考えていければと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

吉成 哲

理工学研究科 教授



平成28年11月14日付で理工学研究科に着任しました。専門は医用福祉工学で、超高齢社会における課題対応の一環として、生体情報の計測評価に基づく医用福祉・生活支援機器等の研究開発に携わってまいりました。これからは、人間の身体特性を工

学的に捉える研究を深めるとともに、医用福祉分野への応用、地域への貢献に向けて、様々な活動に取り組むことができればと考えています。どうぞ宜しくお願いいたします。

岩井 邦久

農学生命科学部 教授



2016年11月に農学生命科学部食料資源学科に着任しました。自分が生まれ育った地で働く機会を得たことに感謝しています。

専門は食品機能科学で、これまで青森県の研究所や大学において、研究成果の地域

への還元を念頭に「地域食資源」と「生理機能」をキーワードとした研究と教育を行ってきました。微力ですが、本学でも食産業で活躍できる人材育成と地域産業の振興に貢献できるよう力を注ぎたいと考えています。

小島 秀和

北日本新エネルギー研究所 准教授



平成29年1月1日付で北日本新エネルギー研究所に着任いたしました小島秀和と申します。これまで、電磁浮遊法、航空機の放物線飛行を利用した微小重力環境下で高温融体の熱物性計測や、高温での結晶成長メカニズムを研究してきました。

弘前大学では皆さんと一緒に、これまでの研究で培ってきた技術と知識を生かしながら、新しいエネルギー材料の開発に挑戦し、世界に向けて発信していきたいと考えています。

教育学部 理科教育講座 理論物理学研究室

准教授 佐藤 松夫



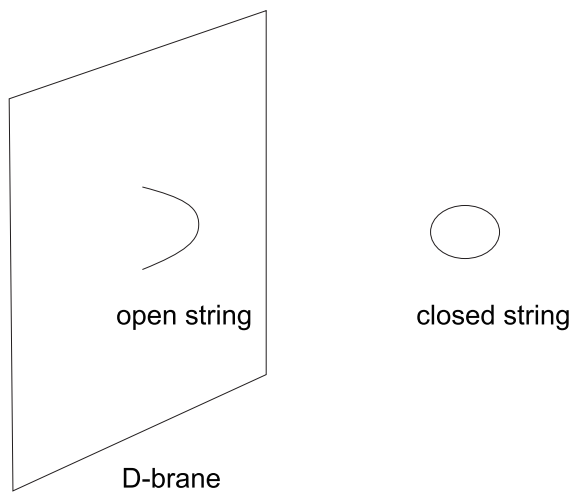
1 はじめに

この度、平成28年度弘前大学学術特別賞（遠藤賞）を受賞することとなり、とても光栄に存じます。受賞対象の研究は「一般相対性理論の量子力学（宇宙の始まりを含む全宇宙を記述する基礎方程式の構成）」というものです。この研究は弘前大学教育学部に着任した後、着想から発展にまで至ったもので、先生方や学生諸君、職員の方々には深く感謝しております。特に、教育学部の先生方は教育に強い熱意を持っていらっしゃる、学生のみならず私自身も元気づけていただき、研究面、教育面、人間面ともに成長させていただいていると感じております。本受賞の縁で研究室紹介の機会をいただきましたので、研究内容と研究室について紹介させていただきます。

2 研究内容

宇宙の始まりはどのようなものであったのでしょうか、そもそも宇宙の始まりとは何なのでしょう。これは人類が誕生して以来の、私たちの存在起源に対する問いで

す。アインシュタインが一般相対性理論を発見して以来、この問いに科学的に答えられる可能性が生じました。一般相対性理論のアインシュタイン方程式の解は宇宙の時間発展を記述します。その解を現在から過去へ遡っていくと、宇宙の始まりのところで宇宙は点となり、記述が破たんします。実は、一般相対性理論にはある程度より小さいものは記述できないという理論の限界があります。このような極微の世界を記述するのは量子力学です。よって、宇宙の始まりを記述するには、一般相対性理論の量子力学を構成する必要があります。一般相対性理論の量子力学は超弦理論で記述されることが知られています。しかし、超弦理論は未だ完成していません。これを完成させるのが私の研究目的です。



超弦理論における基本的物体

私は超弦理論の完成形のモデルとしてM理論の3代数模型を提唱し、これまでの超弦理論との関係式を与えました (Sato 2010)。超弦理論の完成形の「モデル」と言っているのは、現段階では完成形であることは証明されていないからです。以降の研究で解析的な手法を用いて（紙とペンのみを用いて）完成形であることの証拠を積み重ねていきました。

$$S = \left\langle -\frac{1}{12}[X^I, X^J, X^K]^2 - \frac{1}{2}(A_{\mu ab}[T^a, T^b, X^I])^2 - \frac{1}{3}E^{\mu\nu\lambda}A_{\mu ab}A_{\nu cd}A_{\lambda ef}[T^a, T^c, T^d][T^b, T^e, T^f] - \frac{i}{2}\bar{\Psi}\Gamma^\mu A_{\mu ab}[T^a, T^b, \Psi] + \frac{i}{4}\bar{\psi}\Gamma_{IJ}[X^I, X^J, \psi] \right\rangle$$

M理論の3代数模型の原理

第一の証拠として、M理論の3代数模型は超弦理論としてふさわしい超対称性を持つこと、またこれまで知られていた特殊なモデルを含むより一般的なモデルであることを示しました (Sato 2012)。第二の証拠として、これまで数学的な意味しか与えられていなかったザリスキー量子化に物理的な意味を与え、適用することにより、M理論の3代数模型が粒子の生成・消滅を記述できることを示しました (Sato 2012)。第三の証拠として、M理論の3代数模型を得るために用いた手法を、これまで知られていた別の複数のモデルに適用しても超弦理論の超対称性を持つことを示しました (Sato 2013)。このことはM理論の3代数模型を得る手法が超弦理論の完成形を得るのに適切な手法であることを意味します。第四の証拠として、数学者神谷氏との共同研究により、M理論の3代数模型の数学的構造を調べ、いくつかの定理を得ました (Kamiya, Sato 2014)。よって、M理論の3代数模型は非自明な数学的構造を豊富に有しており、完成形としてふさわしいと考えられます。また、この数学的構造を利用してモデルを解析していくことができます。第五の証拠としてM理論の3代数模型とこれまでの超弦理論との関係式をさらに与えました (Sato 2014)。現在もさらなる証拠を探しています。

3 研究室紹介

当研究室の教育目標は、本物の科学的態度を身に付けた小学校、中学校、高校の教員を養成することです。教育学部なので学部生が主となりま

す。学生は2年生の初めから研究室配属されます。多いパターンとしては2, 3年生のゼミで宇宙に関するテキストを読みます。4年生でこれまで自分の好きだったゼミの内容を自分が教えたい対象、つまり小学生、中学生、または高校生に教えるための研究を行います。これまでの卒論テーマの例では、「中学生のためのインフレーション理論」(Sasaki, Sato 2014)「高校生のための理論物理学入門」(Sato, Nozaki 2014)などがあります。

「中学生のためのインフレーション理論」は宇宙の始まりに関する中学生向けの解説です。宇宙は火の玉として生まれたとするビッグバン宇宙論が長らく信頼されてきました。しかしそれには地平線問題や平坦性問題などといった大きな問題点がありました。真空のエネルギーによって初期宇宙は指数関数的膨張をするというインフレーション理論は、上記のような問題を解くことができる理論です。「中学生のためのインフレーション理論」では比較的理解しやすい地平線問題とそのインフレーション理論による解決という概念を中学学習指導要領で定められている知識レベルで教えることについて研究しました。特に、単なる断片的な知識の羅列ではなく、理論を理解させることに重点をおきました。

「高校生のための理論物理学入門」では、高校生向けの特殊相対性理論の構成を行いました。これまでの理論の限界に直面した際、その限界を超えた原理を設定し無矛盾性を通じて理論を構成するという理論研究の面白さを、高等学校学習指導要領までの知識の範囲内で高校生に伝えることができるか研究しました。高校生向けの特殊相対性理論の解説本などは出版されていますが、理論的に基本法則を構成するという立場で書かれているものはあまりありません。また構成の過程で、結果を知っていなけれ

ばわからないような不自然な仮定をおいている場合も多く見受けられます。この研究では特殊相対性理論の解説というよりも特殊相対性理論の構成を通じて理論研究の面白さを伝えることを目的としました。

4 さいごに

当研究室は教員養成が目的であるため、これまでは学生諸君との超弦理論の共同研究は行えませんでした。現在一緒に基礎物理学研究所のスーパーコンピュータを用いてM理論の3次元模型のシミュレーションを行い、宇宙の始まりの研究にも取り組んでいます。基礎科学の研究を行うことは教員になるために必要な本物の科学的態度を身に付ける貴重な経験だと考えています。

平成28年度弘前大学学生表彰を実施

本学では、研究活動や社会活動、課外活動で活躍した学生及び学生団体を表彰する学生表彰授与式を、3月7日（火）大学会館3階大集会室で行いました。

今回の受賞者は、課外活動等で活躍した7団体、研究活動や課外活動で活躍した学生27名で、表彰式には各研究科長・学部長、指導教員及びサークル顧問教員も出席し、佐藤学長から学生1人ひとりに表彰状と記念品が贈呈されました。

佐藤学長から、「皆さんの成果は本学の誇りであり、本学の名声を高めていただいたことに心から感謝します。ただその成果は、皆さんだけのものではなく指導教員であり、共に努力した学友であり、いろんな面で支援した職員の手助けがあつてのことだということを真摯に受け止めて欲しい。また、これからも本学の他の学生に大きな良い刺激を与えて欲しい。今後も益々の研鑽と努力を期待しています。」と学生の功績を讃える言葉が贈られました。

受賞者を代表して、人文学部現代社会課程4年の坂本大河さんが「私たちの日頃の活動が認められ表彰されるということが非常に嬉しく誇りに思う。学内外での活動が、佐藤学長はじめ、多くの大学関係者の方々に支えられているということもあらためて強く感じた。今後も、自分たちが弘前大学の学生であるという誇りと自覚を持って、それぞれの活動に精進していきたい。」と謝辞を述べました。



佐藤学長（前列右から7人目）と受賞者ら

平成28年度弘前大学学生表彰採択一覧

【団 体】

社会活動で特に顕著な功績があった学生等

No.	団 体 名	受 賞 理 由
1	短命県体験ツアー	青森県協力のもと学生主体で企画・実施された「短命県体験ツアー」において、学生チームの代表として大きな功績をあげた。

社会活動で特に顕著な功績があった学生等

No.	団 体 名	受 賞 理 由
1	柔道部	第58回（平成28年度）全国国立大学系柔道優勝大会 第3位 平成28年度東北学生柔道体重別団体優勝大会 優勝
2	医学部陸上競技部	第59回東日本医科学生総合体育大会（陸上競技女子フィールド） 第2位
3	医学部準硬式野球部	第59回東日本医科学生総合体育大会（準硬式野球競技） 準優勝
4	医学部ソフトテニス部（女子）	第59回東日本医科学生総合体育大会（ソフトテニス競技） 女子準優勝
5	医学部ラグビー部	第59回東日本医科学生総合体育大会（ラグビー競技） 準優勝
6	医学部バドミントン部	第46回北日本医科系学生バドミントン選手権大会 男子団体優勝 第6回北日本保健学系学生バドミントン選手権大会 男子団体優勝

【個人】

研究活動で特に顕著な成果を挙げた学生等

No.	氏 名	推 薦 理 由 (概 要)
1	田中 沙織	日本銀行本店で行われた金融に関する学生論文コンテスト『第11回日銀グランプリ』において発表を行い、最優秀賞に選出された。
2	早坂 友佑	日本銀行本店で行われた金融に関する学生論文コンテスト『第11回日銀グランプリ』において発表を行い、最優秀賞に選出された。
3	伊賀 千紘	第33回日本受精着床学会において「精液刺激による子宮内膜NK細胞のサイトカイン産生能についての検討」により、世界体外受精会議記念賞（基礎部門）を受賞した。
4	伊藤 真子	第57回日本神経病理学会総会学術研究会において「延髄の外側楔状束核に認められた新規エオジン好性神経細胞内封入体」のテーマで研究発表を行い、学生優秀ポスター賞を受賞した。
5	斎藤 哲	「我が国における季節性インフルエンザ流行曲線に影響を及ぼす因子の検討」の分析結果が英文国際誌に掲載された。(Saito S, et al. Influence of Media on Seasonal Influenza Epidemic Curves, International Journal of Infectious diseases 2016;50:6-9)。
6	柏木 悠里	第11回日本臨床検査学教育学会学術大会において、「急性放射線症候群バイオマーカーとしての血清中循環microRNA」のテーマで研究発表を行い、優秀発表賞を受賞した。
7	山田 直	第11回日本臨床検査学教育学会学術大会において、「細胞外へ分泌される膜小胞エキソソームは不均一な集団である」のテーマで研究発表を行い、優秀発表賞を受賞した。
8	千葉 聖也	2016年度色材研究発表会（平成28年10月13,14日開催）における以下の口頭発表に対して、優れた発表者に贈られる優秀講演賞を受賞した。
9	齊藤 司	日本農業気象学会2016年全国大会において、「群落内CO2貯留を考慮した白神山地ブナ林における炭素収支」と題する研究発表を行い、優秀ポスター賞を受賞した。
10	及川 祐梨	国際会議：フルオロポリマー2016（2016年10月2～5日開催）における以下の発表に対して最優秀ポスター賞を受賞した。「Preparation of Fluoroalkylated Oligomer/Talc Composites-Encapsulated Hydrophilic Polymeric Compounds Possessing Highly Oleophobic and Superhydrophilic Characteristics」
11	Arissara Ratcha アリサラ ラッチャ	国際会議：フルオロポリマー2016（2016年10月2～5日開催）における以下の発表に対して優秀ポスター賞を受賞した。「Preparation and Thermal Stability of Fluoroalkyl End-Capped Vinyltrimethoxysilane Oligomeric Silica/Poly (acrylonitrile-co-butadiene) Nanocomposites-Application to the Separation of Oil and Water」
12	関口 龍太	日本化学会が主催する第5回CSJ化学フェスタ2015において「ヘキサベンゾコロネン骨格を基盤としたワープド・ナノグラフェンの合成研究」の研究課題で優秀ポスター発表賞を受賞した。
13	Phanthong Patchiya パチャ パントン	質が高い国際論文誌「RSC Advances」(IF=3.289) 及び「Journal of the Taiwan Institute of Chemical Engineers」(IF=2.848) などに掲載された。
14	李 修敏	質が高い国際論文誌「Chemical Communications」(IF=6.834) と「Journal of Materials Chemistry A」(IF=8.262) などに4編が掲載された。

課外活動で特に顕著な功績があった学生等

No.	氏 名	推 薦 理 由 (概 要)
1	舘坂 将矢	平成28年度東北学生柔道体重別選手権大会 66kg級 優勝 第43回（平成28年度）東北総合体育大会柔道競技 成年男子団体 第1位
2	泉 高祥	平成28年度東北学生柔道体重別選手権大会 60kg級 優勝 第43回（平成28年度）東北総合体育大会柔道競技 成年男子団体 第1位
3	大久保玲美	第43回（平成28年度）東北総合体育大会陸上競技 女子5000m競歩 第1位 第99回日本陸上競技選手権大会 女子20km競歩 第8位
4	高橋麻里奈	第69回東北学生陸上競技対校選手権大会 女子ハンマー投 第1位 第38回北日本学生陸上競技対校選手権大会 女子ハンマー投 第1位 第45回東北学生陸上競技選手権大会 女子ハンマー投 第1位
5	上野 浩太	第50回全日本医科学生体育大会ソフトテニス競技 ペア準優勝
6	木下 翔平	第50回全日本医科学生体育大会ソフトテニス競技 ペア準優勝
7	板矢 一希	第6回北日本保健学系学生バドミントン選手権大会 男子シングルス 優勝
8	高橋 茜	第58回東日本医科学生総合体育大会 スキー競技女子回転 第1位 スキー競技女子大回転 第1位 スキー競技女子スーパー大回転 第2位 女子複合 第1位
9	宇佐美真太郎	第58回東日本医科学生総合体育大会 スキー競技男子回転 第1位 スキー競技男子スーパー大回転 第1位

10	浦田 風	第73回全日本医歯薬獣医学大学対抗陸上競技選手権大会 女子円盤投 第2位 第59回東日本医科学生総合体育大会（陸上競技） 女子円盤投 第2位
11	黒岩 秀	第28回北日本医科学生陸上競技大会 男子100m、男子4×400mR 第1位 第59回東日本医科学生総合体育大会（陸上競技） 男子100m 第3位
12	伊藤 真子	第59回東日本医科学生総合体育大会（陸上競技） 女子100mH 第2位
13	賀佐 一大	第28回北日本医科学生陸上競技大会 男子200m、男子4×400mR 優勝 男子100m 第2位

社会活動で特に顕著な功績があった学生等

No.	団 体 名	受 賞 理 由
1	中川 慧美	「トビタテ！ JAPAN日本代表プログラム」に青森県で初めて選ばれ、中国・上海に留学した。 この留学の成果をりんご振興研究センター「第22回りんごトーク」で報告し、その内容は東奥日報「東奥春秋」でも取り上げられた。

学生提案による教育学生支援を目指して

学生と教職員が連携した 大学づくり懇談会

学 生
×
教 職 員



「学生と教職員が連携 した大学づくり懇談会」 を開催

平成29年2月1日（水）、附属図書館3階グループラーニングルームにおいて「学生と教職員が連携した大学づくり懇談会」を開催しました。

この懇談会は、学生と教職員と一緒に学生生活や学修環境の充実について考えてみようと呼びかけ、学生と教職員17名が参加しました。

懇談会では、山形大学の「山大闘論！」の事例報告に始まり、参加者を3つのグループに分け『「より良い学生生活のため大学に言いたいこと（提案したいこと）。を、どうしたら（どうやって）大学に伝えることができるか。』をテーマに忌憚のないアイデア出しをグループ毎にディスカッションし、グループ発表を行いました。

グループ発表では、「大学から学生への情報発信が弱いので、学生が情報をキャッチしやすい環境を整える必要がある（SNSの更なる活用）」、「弘前公園で学生・市民参加型、学長と鬼ごっこ！で提案を聞いてもらう」、「大学の組織の中に学生が主体的に活動出来る組織を作る」といった、新しい発想によるアイデアの紹介がありました。

参加した学生からは、「このような懇談会を今後も続けて欲しい」と望む意見がありました。



「第1回ノートテイク講習会」を開催



平成29年2月14日（火）、聴覚障害学生のための情報保障の技術を学ぶことを目的に「第1回ノートテイク講習会」を開催しました。この講習会には、「みやぎDSC（Deaf Support Center）」の代表松崎丈先生（宮城教育大学准教授）、養成担当の佐藤晴菜さん、前原明日香さん（共に宮城教育大学しょうがい学生支援室コーディネーター）を迎え、学生と教職員あわせて約20名が参加しました。

講習会では、受講者が聴覚障害者の疑似体験をとおしてノートテイクの重要性を体感することから始まり、ノートテイクの基礎知識やルールを学んだ後に、模擬講義で実際にノートテイクを体験しました。

また、聴覚障害者である松崎代表からは、学生時代に苦労した実体験をとおして、聴覚障害学生が健聴学生と対等に講義に参加するということについて、手話をとおしてお話いただきました。

3時間という長い開催時間にもかかわらず、休憩時間の間にも参加者から次々と講師の方々への質問が飛び交いました。その中で、宮城教育大学では現在、聴覚障害学生が10名在籍しており、ノートテイクカーとして130名ほどの学生が登録していることや、聴覚障害学生が積極的に教師に働きかけることの重要性などお話しいただき、大変貴重な機会となりました。



「第12回学生相談を考える会」を開催



平成29年2月17日（金）、学生相談に携わる学内外の教職員を対象にした「第12回学生相談を考える会」を開催しました。同会は多様化・複雑化する学生相談に適切に対応し、学生への支援体制を充実させようと平成20年度から開催しており、今回で12回目となります。県内からの大学関係者を含め約50人が参加しました。

今回は、本学の学生特別支援室 石川 玲 室長（保健学研究科 教授）から、『障害者への不当な差別的取扱いの禁止』と「合理的配慮の提供」について－本学の事例と課題－』と題した情報提供がありました。

その後の質疑応答で、障害等があることにより、社会的障壁に本人のモチベーションが下がり過ぎないように、早く支援を受けて単位修得へと気持ちを向けさせることが大事であるとの話題提供があり、関連して石川室長からは早く支援に結びつけるための方策が大きな課題となっている旨の説明がありました。その後、学外研修・実習における受け入れ施設の確保や合理的配慮等についての調整に関する活発な意見交換があり、非常に有意義な機会となりました。



VI. 編集後記

学園だより3月号の特集は「卒業・修了・退職にあたって」です。入学時から知っている学生の卒業の寄稿を読み、ついこの間の新入生が頼もしくなって卒業していこうとしていることに気づかされます。毎年のことではありますが、頼りにしてきた先生方も順番に定年を迎え、大学を後にしていきます。それに伴い、自分に迫る責務

がより重いものになっていくことに目を逸らすことは出来ません。この時期には感傷に浸りながらあれこれ考えるものですが、新年度が始まれば怒涛のような毎日が待っているわけです。そのサイクルはただの連続ではなく、コイルのように積み重なっていくことと信じていた。
(K.S.)

募金へのご協力ありがとうございます。

2016年、日本国内では地震・台風・噴火・暴風雪などの自然災害がありました。弘前大学生協では4月に起こった「熊本地震」、8月の台風10号による岩手県への被害へ緊急支援のため募金活動を行い、たくさんの思いとご協力をいただきました。ありがとうございます。

また、「未来の大学生応援募金」は現在も継続しており、2011年3月の「東日本大震災」で被災した岩手、宮城、福島の沿岸部を中心とした被災高校43校（後援会含む）に「義援金」として送り、また、七ヶ浜町で月1～2回開催の「学習支援ボランティア」の運営費用の一部とするなど、東北の子どもたちのために有効に使われています。



「未来の大学生応援募金」は生協オリジナル弁当容器代10円を「募金」としていただいています。

文京キャンパス Cerisier（サリジェ）入り口にある専用BOXに入れるだけ！

皆様のご協力に大変感謝しております。これからもよろしくお願い致します。

■未来の大学生応援募金
期間：サリジェデポジット容器募金で継続中

■「熊本地震」 緊急募金
期間：4/20～9/13



■「岩手県台風10号被害緊急支援募金」
期間：10/5～11/30



研究室で眠っている弁当容器はありませんか？

生協オリジナル弁当容器は「デポジット容器」で、お弁当購入時に10円をお預かりしています。食が終わった弁当容器のフィルムを剥いで生協各店舗にお持ちいただくと10円がお手元に帰り、「ゴミの減量化」「リサイクル工場での障がい者雇用」に繋がります。



弁当容器回収にご協力を！

弘前大学で卒業をお慶び申し上げます

平成28年度の金木農場産米を使用し醸造された日本酒「弘前大学」が、2月1日に発売されました。口に含むとふくよかな香りがし、飲み口はすっきりと柔らかく、日本酒を初めて飲む方でも飲みやすいお酒です。

今後のご活躍が期待される卒業生の皆様にも、様々な場面でご愛飲いただければ幸いです。

弘前大学オリジナル 日本酒「弘前大学」
1本 2,143円（720ml）

●日本酒「弘前大学」は下記店舗でお求めいただけます。

弘大生協サリジェ tel 0172-34-4622

※弘大生協ホームページからもご注文いただけます。



■グラス（2個）セット2,966円

＝4月から弘前大学院に進学される方、または研修医等になる方は組合員の身分変更をお忘れなく！＝
お手続きは文京キャンパス：SHAREA・経理店 / 医学部キャンパス：FERIO・Clover店

弘前大学生生活協同組合（0172-34-4806）



弘前大学

学園だより

Vol.189 2017年3月発行

国立大学法人 弘前大学「学園だより」
編集委員会

委員長 飯島裕胤 (教 育 委 員 会)
委 員 加藤恵吉 (人文社会科学部)
塚本悦雄 (教 育 学 部)
浅野義哉 (医 学 研 究 科)
千葉 満 (保健学研究科)
藤崎和弘 (理工学研究科)
坂元君年 (農学生命科学部)
澤田祐子 (学 生 課)
粕谷常好 (学 生 課)

印 刷 青森コロニー印刷

学園だよりに関するご意見がございましたら、下記のアドレスまでお寄せ願います。

弘前大学学務部学生課 e-mail: jm3113@hirosaki-u.ac.jp